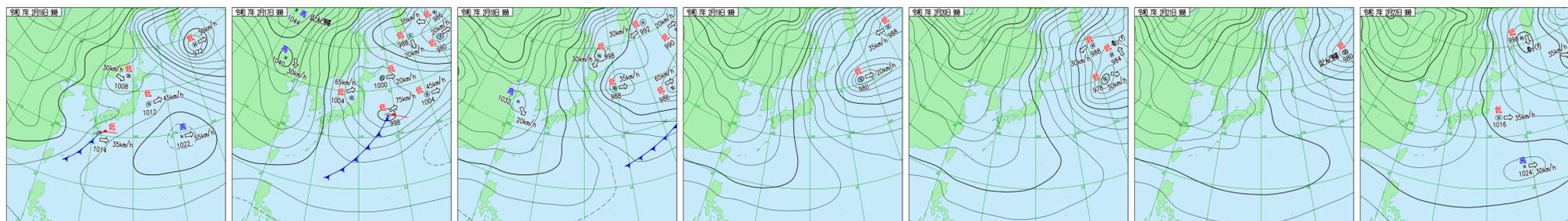


■天気図（2月16日～2月22日 ※毎日午前9時を掲載）



【今期間の天候について】

■気圧配置の特徴

16日、日本海北部を低気圧が南東進。関東の東を低気圧が北東に進んだ。前線を伴った低気圧が本州の南海上を東進。北日本で続いた冬型の気圧配置が緩んだ。17日、前線を伴った低気圧が日本の東海上を東北東進。日本海の低気圧が東進し、北日本を通過した。別の低気圧が千島の東を東進。本州付近は次第に強い冬型の気圧配置となった。18日、低気圧は発達しながら日本の東へ遠ざかった。日本付近は強い冬型の気圧配置が継続。オホーツク海を別の低気圧が南下した。19日、日本の東を低気圧が東進。日本付近は強い冬型の気圧配置が続いた。20日、本州付近は前日に引き続き強い冬型の気圧配置となった。21日、日本のはるか東で低気圧が停滞。日本付近は冬型の気圧配置が継続した。22日、日本の東で低気圧が発生し、東へ進んだ。日本付近は冬型の気圧配置が継続。寒波の影響が続いた。

■降水

16日、北海道は所々で弱い雪や雨。朝は東～西日本の太平洋側沿岸部を中心に雨となった。17日、日本海側の平地では昼前まで雨の降る所があったが、夜は雪となった。18日、日本海側を中心に雪が降り、近畿や東海など太平洋側にも雪雲が流れ込んだ。青森県酸ヶ湯では最深積雪が491cmに達し、今季一番の積雪となった。19日、日本海側は局地的に雪の降り方が強まり、青森県酸ヶ湯では最深積雪499cmを観測。20日、東北から山陰の日本海側で山沿いを中心に降雪が続いた。青森県酸ヶ湯では最深積雪が509cmに達し、12年ぶりの5m超え。21日、石川県内では6時間に28cmの降雪が観測されたとして、顕著な大雪に関する気象情報が発表された。22日、山陰や近畿北部では日本海で発達した雪雲が流れ込み、雪が強まって各地で積雪が増加。今シーズン最も多い積雪となった。石川県輪島市では、17時までの6時間に26cmの顕著な降雪を観測した。

■気温

16日、各地で春を思わせる陽気となった。東京は4月上旬並みの16.9℃を観測。札幌で今年最高の5.9℃となった。17日、朝よりも夜の方が冷え込んだ所が多く、西日本や日本海側の地域では前日より気温の下がった所が多い。18日、全国的に昼間も気温が上がらず、真冬の寒さが戻った。最高気温が10℃を上回ったのは九州の太平洋側など一部に限られ、北日本は真冬日の所が多くなった。19日、太平洋側を中心に日差しが届いたものの、最高気温が10℃を超えた地点はわずかとなった。20日、朝は真冬並みの厳しい寒さとなり、朝の最低気温は東京-1.0℃、名古屋-2.5℃と、今季一番の冷え込みを記録。昼間も真冬並みの寒さが続き、日中の最高気温が10℃に届かない所が多かった。21日、引き続き全国的に冷え込みが強く、平年より低い所が多くなった。22日、最高気温は広い範囲で平年を下回る寒さが続き、名古屋・大阪・福岡は5日連続で最高気温が10℃を下回った。